

## —編集後記—

今号はシンポジウム特集をお届けいたしました。いかがだったでしょうか。コロナ禍で昨年度のシンポジウムはオンラインで行われましたが、今年度は対面とオンラインを併用してシンポジウムを開催することができました。学会員の皆様が久々に会場で顔を会わせ、活発な討論を行っていました。そのシンポジウムの熱気を少しでもお届けできたとすれば幸いです。4人の講演者にはシンポジウムの後、講演内容をわかりやすい文章に起こしていただき大変ありがたく思います。また、今回のシンポジウムの企画・運営を担っていただきました取組会長、諸泉副会長、渡辺事務局長をはじめ事務局の皆様にも感謝申し上げます。

私は148号から153号までの2年間、編集委員長を務めさせていただきました。この2年間、楽しくやらせていただけたことに変えて感謝しております。

148号ではArduino特集を始めました。2019年、2020年のポスター発表を見ていたら、ArduinoやRaspberry Pi、M5stackなどのマイコンを活用した土壌物理計測に関するものが多いことに気が付きました。早速、発表者の指導教員に連絡を取りながら編集委員の坂口さんと特集を組みました。

149号ではArduino特集に加えJpGU特集も始めました。JpGUのコンピーナーでもある編集委員の濱本さんにご尽力いただき特集を組むことができました。他のコンピーナーの先生方と企画・立案をしていただき、若手の先生を中心に執筆いただいた論文や研究ノートを掲載しました。

150号の特集号では、みんなのミニレビューを数多く掲載することができました。みんなのミニレビューへの執筆のお願いをオンラインで行ったことで、多くの学会

員の方々と直接お会いできたのは楽しい思い出となっております。また、学会誌に留学生が読める記事が少ないとの要望にお応えすべく、海外の著名な土壌物理学者にメッセージという形で記事を書いていただき載せてみました。TDRに関する研究をやっていた私はToppさんと直接連絡が取れたときは大変興奮したことを覚えております。

151号はシンポジウム特集としました。「地表面-大気間の物質・エネルギー動態のモデル化-土壌物理学に求められること」をテーマに5人の講演者に解説や論文を執筆いただきました。また、総合討論も資料として取りまとめていただき、オンライン開催ではありましたが対面と変わらない熱気に溢れたものとなったと思います。

152号では放射性物質特集を始めました。本来であれば東日本大震災から10年目に特集が組めれば良かったのですが、私の技量不足で間に合いませんでした。幸い、森林総合研究所で「伝えたい！森の中の放射性セシウム—10年で明らかになったこと」をテーマに公開講演会が開催され、学会員である篠宮さんが講演を行っていたこともあり、編集委員の小林さんと特集を組みました。

今期は巻頭言の執筆者にも拘ってみました。丸山先生をはじめ錚々たる顔ぶれの先生方に執筆いただきました。私どもの依頼にどの先生方も快く執筆を引き受けていただけたのは大変ありがたかったです。

このように多くの皆様のご協力をいただきながら楽しく編集委員長の任を果たすことができました。最後に「土壌の物理性」に論文等を投稿いただきました多くの学会員の皆様に感謝申し上げます。

宮本輝仁（編集委員長）

土壤物理学会

事務局構成

会 長	取出 伸夫	三重大学 大学院生物資源学研究科
副 会 長	諸泉 利嗣	岡山大学 大学院環境生命科学研究科
事務局長	渡辺 晋生	三重大学 大学院生物資源学研究科
庶務幹事	小島 悠揮	岐阜大学 工学部
庶務幹事	廣住 豊一	四日市大学 環境情報学部
編集幹事	亀山 幸司	農研機構 農村工学研究部門
会計幹事	坂井 勝	三重大学 大学院生物資源学研究科
会計監査	岩間 憲治	滋賀県立大学 環境科学部
	水谷 嘉之	三重県 農業研究所

編集委員会

委 員 長	宮本 輝仁	農研機構 農村工学研究部門
委 員	朝田 景	農研機構 農業環境研究部門
	岩田 幸良	農研機構 農村工学研究部門
	小林 政広	森林研究・整備機構 森林総合研究所
	坂口 敦	山口大学 大学院創成科学研究科
	千葉 克己	宮城大学 事業構想学群
	常田 岳志	農研機構 農業環境研究部門
	中野 恵子	農研機構 九州沖縄農業研究センター
	濱本 昌一郎	東京大学 大学院農学生命科学研究科